

「平和も守る 経営者の使命」

戦争起こすのも止めるのも人間

会社に垂れ幕 市民に訴え

「戦争を起こすのも人間 戦争を止めるのも人間」一。そんな言葉がつづられている垂れ幕

が、札幌市東区の会社の壁面に掲げられ、道行く人の目を引き付けている。設置したのは、市内の企業のトップ3人が世話を務める「グリーン九条の会」。全国で7500を超える「九条の会」の中でも、経営者主体の会は例がないという。

「平和憲法のおかげで幸せに生きられた私たちの使命は、憲法を守ること」。その信念が3人を支えている。

(報道センター 平岡伸志)

札幌・グリーン九条の会

長さ8歳の垂れ幕があるのは、旅行会社「りんゆう観光」本社ビル。社長の植田英隆さん(71)は「目にした人が平和を考えるきっかけにしてあげれば」と、4月下旬に掲げ始めた幕を見上げる。

乳飲み子だった自分を抱いて空襲から逃げ感った体

呼び掛け人の護憲団体「九

憲法70年

験を、母から何度も聞かされた。旅行会社の経営者になり、「旅や観光は平和だからこそ楽しめる」と実感するようになった。

2008年10月、「経済

人からも声を上げたい」とグリーン九条の会をつくった。以前から知り合いだった「秋山不動産」(札幌)会長の秋山孝一さん(65)と、「旅システム」(同)社長の内山博さん(71)も賛

同して発足に加わった。作家大江健三郎さんらが

条の会」事務局(東京)は「経済人が中心の会は聞いたことがない」という。メンバーは現在、自営業者、元教員なども加わり、10人になった。

主な活動は、札幌で開く講演会だ。これまで10回開き、ノーベル物理学賞を受賞した益川敏英さんには「科学と平和」を、沖縄県宜野湾市の伊波洋一元市長には「米軍基地問題」を語ってもらった。3人は毎月1度は会って、講演会の人選や平和をめぐる時事情勢について意見交換する。



「戦争を起すのも人間 戦争を止めるのも人間」。そう書かれた垂れ幕の前で、「平和を訴え続けたい」と話す(右から)秋山さん、植田さん、内山さん

垂れ幕の「戦争を起こすのも人間」は、13年に89歳で亡くなった元経済同友会終身幹事の品川正治さんが、よく口にしていた言葉だ。日本火災海上保険(現・損保ジャパン日本興亜)の社長などを歴任した品川さんは憲法改正に反対し、平和憲法の大切さを主張した著作もある。

同友会は改憲を求める

意見書を発表したことがある。植田さんらは「経済団体の要職にありながら、自分の信念を曲げなかった」と品川さんに心を寄せ

秋山さんは「経済人が時の政権におもねる風潮が強まってきたと感じている。論争を避けてはいけない。内山さんは「責任ある立場の現役の会長や社長が発言することに意味がある」と話す。

植田さんは、会の活動で事業にマイナスの影響が出たことはないと言う。11年の東京電力福島第一原発事故に衝撃を受け、本社ビルに「脱原発」を訴える垂れ幕も掲げている。「平和運動の先頭に立つほどの活動ではないが、これからも憲法を生かし、守っていく」という思いを伝えていきたい」と話している。